

ひとりでも安心して暮らせる 単身高齢者の住まい

近年、単身高齢者の孤立死が大きな問題となっている。緊急連絡先や死後の残置物の不安から住居を貸してもらえず、住居の確保に困難を抱える高齢者が多く存在する。

01 入居者の想定

【単身高齢者】

- ・80代の高齢者
- ・現在持病はなく、健康
- ・数年前に妻（夫）を亡くし、その後は一人暮らし
- ・子ども一人と孫が一人いる

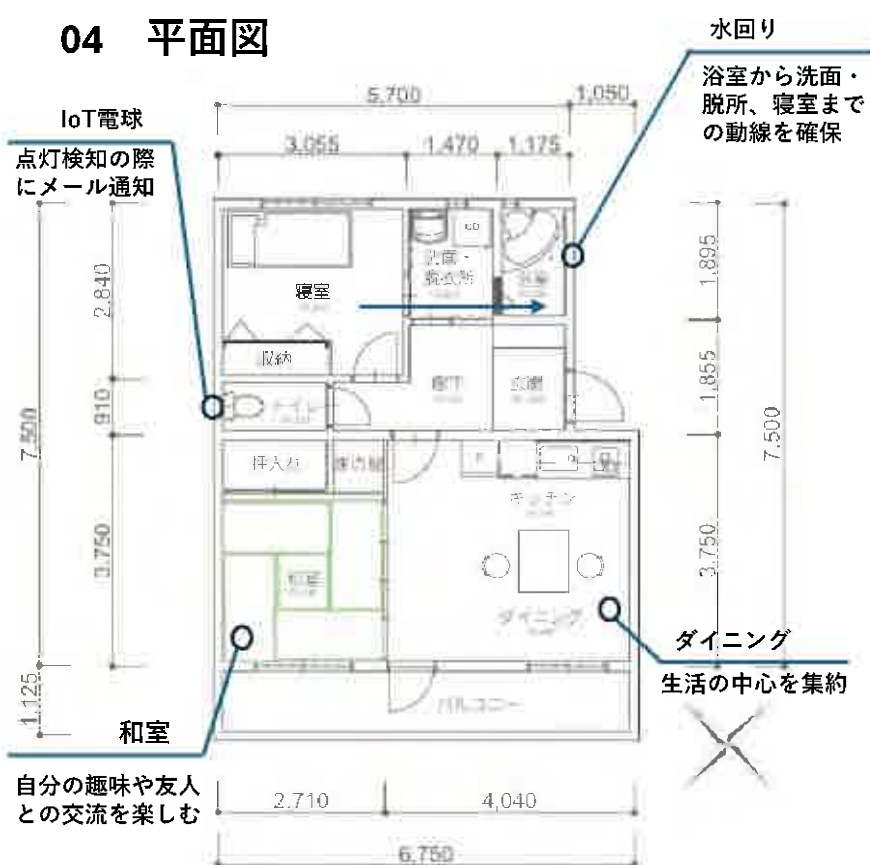
02 入居者が必要とする住環境

- ・バリアフリー環境
- ・ヒートショックを防止するための間取り・設備
- ・孤立を防ぐための設備、人との関わり

03 既存住宅の課題

- ・洗面脱衣所がない
- ・トイレが狭い、段差が大きい
- ・浴室から居室まで行くために、一度廊下に出なければならない

04 平面図



05 提案の方針

- ①自分の時間を大切にしながら、人とのつながりを育む住まい
- ②高齢者のひとり暮らしでも安心して生活できる住まい

06 提案内容の詳細

- ①自分の時間を大切にしながら、人とのつながりを育む住まい



- ・和室ではひとりでくつろいだり、華道や書道といった和室ならではの趣味を楽しむことができる。また、友人を家に招いてこの和室で将棋や囲碁を楽しむこともできる。
- ・ダイニングに隣接しているため、生活動線の短くすることが可能に。

- ・広いリビングにすることで、来客にも対応が可能。
- ・ダイニングでは食事だけでなく、新聞を読む、来客と話すなど、日中の多くの活動を行うことができる。用途ごとに部屋を移動しなくてもよいので、室内移動の負担を軽減できる。



- ②高齢者のひとり暮らしでも安心して生活できる住まい

- ・浴室から洗面・脱衣所、寝室まで直接移動が可能な動線を確保することで、ヒートショックを防ぐ。また、浴室暖房を設置することで、暖かい寝室から寒い洗面・脱衣所や浴室への移動に伴う、急な温度変化を防ぐ。
- ・トイレには点灯検知が可能なIoT電球のHello Lightを設置し、遠く離れた場所に住む息子にメールを通じて点灯状況を知らせる（Hello Light ハローテクノロジー株式会社）。トイレは毎日使用するものであることに加え、この住居におけるトイレには窓がなく、使用する際には毎回電気をつける必要があるため、安否確認システムとして有用である。
- ・室内の段差をなくし、つまずきや転倒のリスクを軽減。
- ・玄関やトイレなど、必要箇所には手すりを設置。